

中国福建省における観光開発の現状と課題

—永泰県の事例—

鄢 玲*

要旨

近年、中国の観光業の成長は著しい。2019年観光業のGDPは中国GDP総額の11%を占めるようになった。本論では、このような時代の流れにおいて、中国福建省の県級町が観光を発展させるにあたり、どのようなことに取り組んでいるのか、また観光業を持続的に発展させるのにどのような課題があるのかについて考察した。研究地域は、自然資源は豊かではあるが、農業を主要産業とする貧しかった福建省永泰県である。

観光業を興すにあたり、永泰県政府が採った試みは、各郷村の特徴を生かした全域観光の促進、インフラの整備、旅行者の利便性を高めると同時に観光サービスの質の向上、ネットメディアを活用した宣伝などがあり、また投資資金においては、政府出資のほか、大企業資金の調達、郷賢の助力、若者を中心とする地元住民の起業など多種多様である。しかし、観光開発と銘打ちながら短期間に利益を得ようとする不動産投資や、リピーター誘致意識の欠如などによって発展が妨げられているという問題も出ており、今後の観光振興に向けた課題となる。

【キーワード】 観光促進 中国観光業 古町開発 誘客宣伝

1. 背景と目的

中国のGDPは改革開放政策が始まった1978年から2019年までの間に、3,678億元(約58,518億円)¹⁾から990,865億元(約15,764,959億円)に急増し、2009年からの10年間でも、約2.8倍以上伸びている²⁾。この急激な経済成長にともない、都市部の個人所得が著しく増大し、これまでは耐久消費財が需要の中心であったが、近年では旅行をはじめとするサービス部門へ移行している。中国文化観光部「2019年観光市場基本状況」によると、2019年の中国国内の旅行者人数は60億人に達し、前年比で8.4%増加した。年間観光収入が6.6兆元(約105兆円)にのぼり、前年より11%増加し、観光業がGDP総額に占める割合は11%を占めるに至っている。

この間、北京、上海、広州などの大都市や西安、重慶、厦門などの伝統的な観光都市はもちろん規模を拡大したが、地方の都市や県³⁾でもリゾート地開発などが積極的に行われ、新たな観光地が生み出されている。また、「村村通」という国家プロジェクトにより僻地にまで自動車道が整備され始め、それを利用して地方の観光地へのアクセスが便利になりつつあることも観光業の発展を後押ししている。このように政府主導の開発が進む一方で、民間資本が投入され、さらに地元の有志者や若者も現場の事業の運営に積極的に参加するなどして、その地方ならではの観光地が生み出されている。

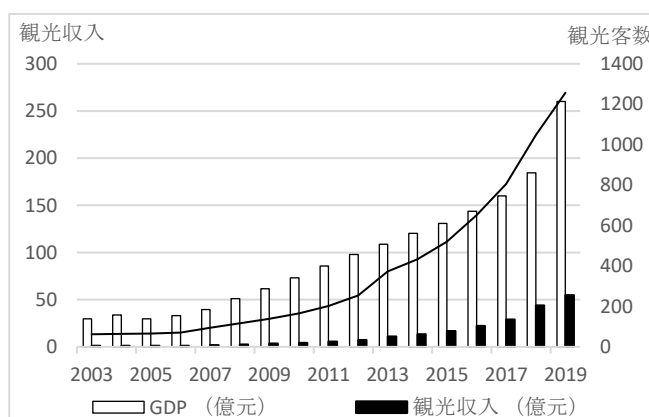


図1 永泰県観光客数とGDP

福建省永泰県は2012年に福建省23箇所の貧困県⁴⁾の一つと指定されていた。しかし、2017年に貧困県から脱

* 厦門大学嘉庚学院・日本語言与文化学院

した五つの県のうち、永泰県は貧困率 0%、一人当たり GDP の成長率が 12%で、最も高かった⁵⁾。図 1 は永泰県の観光客数と、観光収入が GDP に占める割合を示しているグラフであるが⁶⁾、2003 年から 2019 年までの 17 年間に、永泰県に訪れた観光客数と観光収入が急速に増え、観光収入の県 GDP に占める割合は 5 倍近くなった。観光業は永泰県の基幹産業の一つとなった。

2002 年、中国政府は 2020 年までに、貧困をなくし、全人口の 14 億人が小康社会(ややゆとりのある社会)に突入するという目標を定めた。それに応じて福建省は貧困脱却の一つの手段として、観光業の発展に力を入れている。永泰県はその代表的な例である。そこで本稿では、この永泰県の観光振興に着目し、インフラ建設や誘客宣伝、その他具体的な取り組みについて取り上げ、さらに表面化し始めた課題について考察する。

2. 先行研究

永泰県の観光を対象とした研究論文は増加傾向にある。中国の論文検索サイト「知網」(www.cnki.net)で「永泰」、「旅遊(観光)」をキーワードに検索したところ、この 5 年間に発表された関連文献はそれぞれ 2016 年が 3 編、2017 年が 5 編、2018 年が 8 編、2019 年が 23 編、2020 年は 2020 年 11 月 8 日時点で 14 編であった。永泰県の観光が学界に注目されつつあることが論文数の変化からも窺える。

研究は観光開発、民宿、村落や古民家の保存、観光グッズの企画販売、観光客意識調査、観光投資リスクマネジメントなど、幅広い分野で行われているが、本研究と関連のある代表的なものとしては、以下の研究が挙げられる。

まず、観光開発に関する研究論文は諸研究分野の中で一番多く見られるが、全域観光、生態観光、古町開発、古民家の保護など、様々な角度から具体的な開発案を出している。官紫玲ら(2019)は ArcGIS 空間分析技術を利用して、永泰県の景観資源の適性を評価し、古村落と古民家の保存と開発は全域観光の発展戦略に組み入れるべきで、郷土遺産回廊を構築すべきだと提案した。何毓涵ら(2019)は有名なバラエティー番組での紹介や、修学旅行で来る学生のインスタなどニューメディアを活用して永泰県の観光地を宣伝する「観光+マスコミ」のモデルを提案した。

また、永泰県の民宿に関する研究には、劉雅培(2019)の研究がある。この研究では、嵩口鎮の民宿の現状とその問題点を分析した上で、建築の外観とインテリア、宣伝、コスト消費などの面において民宿の構えについて具体的なアドバイスを出した。また、陳華陽ら(2019)は住民の民宿経営に対する関心、民宿経営の現状及び直面している経営問題など、住民側に視点を置いた政策上の支援の必要性和、土地と自然環境を観光資源として活用するための開発案を提言した。

観光客意識調査に関する研究としては、林清ら(2019)の研究がある。永泰県の 4A 級観光スポット⁷⁾において観光資源評価調査を実施し、その調査結果に基づいて、各観光スポットに独自のシンボリックな観光商品を発掘することと、特色あるプロジェクトの企画と実行を提案した。

住民の観光事業への参加意欲については、蘭石財(2018)は嵩口鎮の町建設に関する住民の意見と経験をまとめた。住民が自発的・積極的に観光事業に参加するためには、住民の所有権や居住権など諸権利を守るのはもちろん、住民の旧弊な固定観念を打ち破るとともに、自発的に気軽に意思表示ができるシステムを確立することが重要だと分析している。

また、「郷賢」⁸⁾に関する研究としては、王姿燕(2020)の研究がある。ここでは、郷賢の定義、永泰県の郷賢の現状を明らかにしたうえで、郷賢が観光業の発展における役割を経済面、人材面、人間関係の側面から分析し、郷賢に呼びかけるに当たっては古くから存続する制度をよく理解し、彼らの心理を重視しなければいけないと述べている。

以上のように、本稿と同様に永泰県の観光を対象とした研究は多分野、多角度にわたって多様に行われている。しかし、具体的な観光の取り組みを対象とし、そこにあるリピーター誘致意識の欠如や、観光業育成の長期的視野を持たない短期的投資などの問題をまとめた研究は見られない。そこで、本稿ではこれらの点に焦点を当てて永泰県観光の現状と問題点を考察する。

3. 考察概要

3.1 調査対象の基本情報

調査対象の福建省永泰県は中国福建省の東に位置し、省都福州市の管轄下の県である。戸籍人口は 38.51 万人であるが、常住人口は 25.4 万人しかいない(2018年)⁹⁾。面積は 2,241km² で、「八山一水一分田」が言うように、面積の 8 割が山地であり、残りは河川と耕作地が 1 割ずつ占めている。かつて川沿いの険しい山道しかなかったため、県都から福州市内までは 62km しか離れていないのに、自動車でも 1 時間半以上もかかった。このような厳しい自然環境の中で、農業だけで生活費を賄うことが難しく、人々は出稼ぎに行くしかなかった。そのため、2017年までは貧困県として有名だった。しかし、それはかえって、永泰県の美しい森や川を汚染されることなく、昔のまま残すことができた。

2020年11月時点で観光スポットとして開発された自然景観は 116 箇所あり、そのうち、「国家級風景名勝区」(国指定名勝)に指定されたのは 1 箇所、4A 級観光スポットに選定されたのは 4 箇所ある。温泉の湧出地数も湧出量も福州市で一番多く、泉質もいい。また、山地が多いため、スモモ、梅、ユチャ(ツバキ科)、竹などが多く栽培されており、関連製品が多い。経済的に恵まれ始めたのはここ二、三十数年であるため、昔ながらの民家や村落がたくさん残されている。また、長い間閉塞の状態にあったため、宗教信仰、民俗、行事、宗族文化¹⁰⁾なども昔のままである。

中国の経済発展につれて、永泰県もインフラが整備され、2013年に福州市や隣の莆田市と繋がる高速道路ができ、同年鉄道も県内を通るようになった。県都から福州市内まで電車でも車でも(渋滞がない場合)25分以内で行けるようになった。この交通インフラと中国の全国的な観光業推進政策を背景として、永泰県の観光業が大いに推進され、急成長している。永泰県は福州市のバックガーデンのような存在になり、「中国優秀観光県」(2007年)、「中国温泉のふるさと」(2008年)、「中国天然酸素バー¹¹⁾」(2018年)、「国家全域観光モデルエリア」(2019年)、「2020中国全生態県域百選」(2020年)など、数多くの賞を獲得した。こうして今では観光業は永泰県の基幹産業の一つとなり、貧困県リストから脱出した原動力の一つとなっている。



図 2 永泰県の位置

3.2 考察方法

本研究では、各観光区域における取り組み、インフラ建設及び誘客宣伝についての取り組みに着目して、永泰県人民政府公式サイトにおいて、公表された資料の収集、永泰県観光局の局長や店舗関係者、村人などへのヒアリング、状況把握を目的とした現地調査などを行った。

4. 観光プロジェクトにおける取り組み

永泰県は山、河川、温泉、田舎風景など天然の観光資源が豊富である。この自然はかつて庄寨¹²⁾文化、温泉文化、武術文化、民俗文化などこの地方独自の文化を育んできた。また福建省省都の福州に近いという地理的な優位性を持っている。永泰県はこれらの土地の特徴と各郷鎮の特徴を活かして県を六つの区域に分けて観光業を発展させている。図 3 は永泰県の観光区域図であるが、県都が所在する 1 中核地は、主に管理部門、観光センター、交通センターなどの役割を果たしているが、その他は 2 閩都楽園観光区、3 古鎮生態文化観光区、4 田園休暇観光

区、5庄寨宗教文化観光区、6郊外
 休暇観光区と区分されている。

「2閩都楽園観光区」は自然景観
 が豊富で、福州市内に近いという優
 位性を持っているため、県内で最も
 観光業が進んだ区域である。「3古鎮
 生態文化観光区」では、歴史的建築
 物がたくさんあり、それを活用して整
 備された古い町は今では福建省の
 有名な観光地となり、観光客の人気
 を集めている。「4田園休暇観光区」
 では温泉資源が豊富だが、これを観



図 3 永泰県観光区域

光業に活用するケースは現在ではまだ少ない。しかし、この地域では、村落景観と農業産業を結びつけて観光地に作り上げるとい取り組みが注目されている。「5庄寨宗教文化観光区」と「6郊外休暇観光区」はまだ観光開発のスタート段階にあり、これからの取り組みが期待されるが、「5庄寨宗教文化観光区」では「郷賢」の力を生かして観光インフラを整備することが注目されている。以下、「2」～「5」四つの区域の注目すべき取り組みを具体的に挙げる。

4.1 閩都楽園観光区

この区域には、三つの 4A 級観光スポットと複数の観光地がある。福州市内に近く、地理的優位性を持っているため、都市で生活している人をターゲットにし、観光業を大いに発展させている。大企業から資金を調達し、観光施設を建設することで、2020 年現在、永泰県内で最も観光業が発展している区域として注目されている。

総投資額 120 億元(約 1,909 億円)に達している「八仙過海」観光文化総合プロジェクトを例に見ると、投資は三段階に分けて行われている。第一段階は 60 億元(約 955 億円)を投資し極地海洋世界(水族館)、遊園地、自然博物館の 3 つのテーマパークと、16 万 m²の駐車場と 66.7 万 m²のレジャー公園を建設した。第二段階は 40 億元(約 636 億円)を投資し、ホテルや保養保健施設などを建設している。そして、第三段階は 20 億元(約 318 億円)を投資し、プロジェクトを継続し適宜な観光開発をこれから行う。

雲湖溪谷森林生態観光プロジェクトは、2019年に30億元(約 477 億円)を投資し、森を利用した保養地に位置づけ、「森+α」というコンセプトで、森、温泉、草地、湖、峡谷、村落、滝などの自然環境を全面的に整備し、総合型観光地を作り上げる予定である。

桃花源康養プロジェクトは2020年に着工した。20億元(約318億円)の資金を投入し、リハビリセンター、リハビリホテル、保養施設、老人ホームなどの施設を建設している。コンセプトは、観光レジャー、健康保養、体験型サービスなどの機能集約型プロジェクトである。

以上のように、この地域は主に大企業から資金を調達し、都市生活者向けのレジャー、テーマパーク、保養、宿泊、コンテンツ、アウトドアスポーツ、温泉旅行、修学旅行などを含む機能的観光区域を建設するという方向に向けて発展させている。

4.2 古鎮生態文化観光区

この区域は永泰県南西部に位置し、歴史的な建造物が多く、嵩口鎮だけでも明朝と清朝時代の古い民家建築群は160棟余りある。嵩口鎮には三つの河川が流れており、かつては永泰県で水路の中枢として農業副産物などの集散地となっていた。嵩口鎮は2008年に「中国歴史文化名鎮」、2016年に第一期の「中国特色小鎮」に選ばれた。

嵩口鎮の観光開発は福建省のみならず、中国全土においても古い町の開発の典型的なケースと言える。開発といっても、街道の修復によって、古い町並みの姿を再現することが目的である。開発にあたって以下の二点が留意

された。

一つ目は、歴史的な雰囲気町の並みを復元することである。歴史街道、伝統的な古い民家などを修繕、改造する場合、もともとの構造を破壊しないことを原則とし、伝統を生かしつつ現代的な趣を醸し出すことを原則としている。また、修繕、改造にあたっては、現地の職人による伝統的技術を活用することが求められる。

二つ目は、地域人(地元の人や一度故郷を離れた人)が地域に残れるように工夫することである。古い民家や建築物、古い街道を保存するだけでは、町を活性化することはできない。村落の空洞化、産業の空洞化、資源の遊休化も止められない。そこで、地元住民を村に残させるため、政府はいろいろな工夫をしている。たとえば、竹編み、藤編み、大工、瓦葺、泥人形など消えつつある伝統工芸の職人に対して、店舗賃料免除など資金の面から援助し、商店街(旧街道)で観光客相手の体験式工房などの店を構えることを奨励している。そうして、伝統的工芸の保存と観光業を結びつけると同時に、職人の収入を保証する。

また、古い民家については、民宿に改造することを奨励している。古い民家の構造とそれが醸し出す趣、伝統的内装の機能美を再発見する一方で、現代的なトイレやインターネット、テレビなどを設置している。そして、税金や規制緩和など一連の優遇政策を打ち出し、大学卒業生や若者たちにこの村で、喫茶店や書店、お土産ショップ、茶屋、観光サービスセンターなどを起業することを奨励している。さらに、古建築古民家体験、民俗文化体験、果物狩り、撮影大会などの観光イベントを企画するとともに、竹かご、麦わら帽子、そうめん、サツマイモ粉、干しスモモ、梅酒などの地元の農産品を商品化することで、地域住民の収入の増加を図っている。

現在、この区域では嵩口鎮の経験を生かして、民俗文化、民居探険、農村観光、アウトドアスポーツ、修学旅行など、テーマ別の観光事業を地域全体に広めようとしている。

4.3 田園休暇観光区

この区域は県都に近く、高速道路の便がよい。温泉資源が豊かで、大きな川が流れており、水資源が豊富である。温泉を観光資源として開発するのはここ10年ぐらいのことである。2014年に着工し、2019年12月に営業を始めた「建発山外山」温泉リゾート地はその代表である。山奥に温泉ホテルのほか、商店街、温泉別荘を計画的に配置した人工的な温泉村を建設した。温泉村の不動産(温泉別荘)販売を温泉観光開発と同時に進めることがこの区域の特徴である。

この地域でもっとも代表的な観光スポットは「春光村」という河畔にある村である。村落景観と農業産業を結びつけて観光地に作り上げるという取り組みが注目される。川沿いに古いガジュマルの木が多く、自然景観が優美である。ジャスミンの栽培に適しているため、村はこの優位を利用し、大企業を誘致し農業の産業化に成功した。今では12万㎡のジャスミンを栽培している。村民は土地を企業に賃貸し賃貸料を受けながら、ジャスミンの栽培、採取などの仕事に従事するなどして、確実に収入を増やしている。村は川岸とジャスミン畑に遊歩道を整備し、村の伝統的な建築の外観を保ちながら修復し、空き家を活用して民泊を作り、トイレ環境を改善し、ごみ分類や家禽飼育などに関するルールを明確に定め、観光基盤を整備した。そして、田園風景や農村観光、ジャスミンの花摘みなどの滞在型観光地としてアピールし、観光客に人気を集めている。現在、この区域では田園風景、川下り、保養、レジャー、温泉旅行などを重点に観光業を発展させている。

4.4 庄寨宗教文化観光区

この区域は永泰県西部に位置する。まだ観光開発のスタート段階にあり、観光実績が少ない状態であるが、「郷賢」の力を生かして観光インフラを整備している点が見逃せない特徴である。

「郷賢」とは、故郷の賢人のことである。昔は、人徳も才学も優れており、尊敬されるべき人のことを指していたが、今の時代では主に地域で声望が高い公務員(主に定年した人)、経済力と社会的影響力を有する企業家、現地に常住している有識者、そして宗族で威信が高い年長者の四種類の人を指す。

この区域は、山が多く、昔は山賊が多かったため、人々は現地で採れた石、土と木で造る防御建築「庄寨」を発

明した。四角い庄寨で生まれ育ってきたこの地域の人は姓(家系)と血(血統)のつながりを特に重んじており、そのリーダー的な存在である「郷賢」は率先垂範して様々な形で故郷の発展に力を入れている。筆者の出身地である大洋鎮鳳陽村を例にして述べる。

道路建設においては、永泰県の県都からこの地域までの新しい高速道路が建設中(2020年11月現時点)だが、建設費用はおよそ 6.55 億元(約104億円)が必要である。そのうちの半分は政府から支給されるが、残りの半分は民間から資金を調達することになった。この地域にある大洋鎮は 1 億元(約 15.9 億円)以上の資金を分担することになったが、大洋鎮出身の 18 人の企業家が率先して 6,000 万元(約 9.5 億円)を寄付した。また、大洋鎮鳳陽村の村道は、国家の「村村通」プロジェクトの一環で国から資金が支給されて数年前に出来上がったのだが、自家用車の普及によって道幅の拡張をせざるをえなくなった。道幅の拡張は国家の支援金でカバーできないので、村の企業家が大部分の資金を寄付する一方で、金銭面では豊かではない他の郷賢たちは寄付金の呼びかけに力を入れた。

鳳陽村には築300年以上の古い民家があるが、この建築物はこの村の一番大きく一番古い住宅であり、祖先を祭る祠堂があり宗族にとって非常に大事な場所でもある。しかし、長年修理されていないため、倒壊する恐れさえもあった。これもまた同じように、企業家が大部分の資金を寄付して、ほかの郷賢たちは募金に力を入れた。その結果、合わせて200万元(約 3,182 万円)の修繕金が集まり、2019年にこの古い住宅の修繕工事を終えた。そして、同年、村の企業家が100万元(約 1,591 万円)の資金を出して、ほかの村と連携して第一回の「耕読伝家・自然永泰」を企画した。田んぼアートや、秋の収穫祭りなどを行い、地域の魅力を発信し、農村の観光振興を図っている。

このように、郷賢たちが寄付、投資、企画などを通じて観光を促進している。「郷賢」の率先垂範によって、地域に対する誇りが生まれ、住民の地元への愛着が高まり、地域の一体感が高まっている。現在この区域は、防御建築である庄寨や寺院などの修復と保護に力を入れており、宗教の聖地巡礼、庄寨文化、農村観光、レジャーなどの位置づけで観光地化することが期待されている。

5. 観光インフラ整備における取り組み

観光においては、飲食、宿泊、交通、エンターテインメント、買物などの分野から考察することが一般的であるが、永泰県では、特に観光インフラとしての交通と宿泊の整備に力を入れていることが特徴だといえるだろう。

まず、交通面においては、「快進慢遊」(快速に入りのんびりと遊ぶ)という交通ネットワークの構築を図っている。前述のように、永泰県県都から福州市内までは高速道路もでき、電車でも 25 分以内で行けるようになった。それだけでなく、永泰県経由で福建省の主要都市はもちろん、江西省、浙江省、江蘇省、湖北省などにも電車一本で行けるようになった。しかし、永泰県の主要観光スポットは県都から離れたところに点在しており、交通の便が悪く、旅行者の数は限られていた。そこで、県政府がおよそ4億元(約 64 億円)の資金を投入することで、県都から 4A 級観光スポット(天門山、雲頂の 2 箇所)までの自動車道を整備した。また、重要観光郷にインターチェンジを設けることで、アクセスの所要時間を短縮した。永泰県から福州市までの高速バスは、永泰県県都駅から 20 分に 1 便、一日合計 74 便があり福州市内の三つの主要駅を往復している(2020年11月時点で)。さらに、各観光区を結ぶ支線としてバスのネットワークを構築した。4 箇所の 4A 級観光スポットまで 100 台余りの新型エネルギー観光バスを配置し、観光専用の巡回バスと県都の市バス路線で主要な観光スポットと観光モデル村をカバーするようになった。

自家用車の利用者のためには、県内の高速道路と観光地道路の沿線に観光サービスセンター、展望台、自動車キャンプ場などの施設を増設した。さらに、来県者だけでなく一般の高速道路利用者に対してもサービスエリアに観光案内所を設けて県のお土産を売るなど、宣伝の窓口として活用している。そして、観光客の増加に伴う自家用車や観光バスの急増に対応するため、4A 級観光スポットや有名観光スポットでは駐車場の整備を強化している。今後は、高速道路や省道などの県境や駅、バス停、農村の道などに統一の交通標識を設置する計画もある。

以上のように、永泰県は基幹となるアクセスだけでなく、その先への誘導と利便性の向上も含めた観光交通ネットワークを構築することにより、いわゆる「快進慢遊」を実現しつつある。

次に、宿泊面においては、主に特色ある民宿の建設を促進することが特徴である。観光業が発展するまでは、各

郷には安宿がいくつかあっただけで、県都に四つ星に相当するホテルは一軒しかなかった。観光客の急増に伴い、永泰県は宿泊施設の建設を大いに進めた結果、県都に現時点(2020年11月)では、五つ星に相当するホテルが三軒でき、建設中のものは四軒ある。ホテルだけではなく、各郷は民宿もこの地域独自のかたちで発展させている。永泰県には庄寨や土楼¹³⁾が多く残っているため、これらの伝統的な古民家を修復・改造し、周囲の環境と一体化した桃源郷のような雰囲気を作り出すこともその特徴である。

民宿の発展においては、政府が資金の面から支援している。具体的に、新しくできて実際に運営する民宿を対象に、投資額が1,000万円(約1.6億円)に達した場合は50万円(約796万円)を、500万円(約7,955万円)に達した場合は20万円(約318万円)を奨励金として出資する。年間売上高200万円(約3,182万円)以上に達している民宿に対しては、売上高の5%に相当する奨励金を出し、1軒の奨励金限度額は20万円(約318万円)までである。

その他、飲食の面に関しては、永泰県の伝統料理は軽食に特徴があるのだが、有名なものは各郷に散在している。そこで、永泰県は県都に「美食街」を作り、各地の軽食をここに集めることを考えた。年に一回「美食祭」を行い、永泰県的美食を宣伝するというものである。また、国家観光局の「トイレ革命」の呼びかけにこたえて、観光トイレの建設・建て替え・改造に力を入れるなど、観光インフラを整備している。

6. 誘客宣伝における取り組み

誘客宣伝の手段の一つは、インターネットを利用して発信することである。中国では、ネットユーザーは全年齢層に広がり、中国人のネット依存度は非常に高い。ブログ、フォーラム、ウェイボー(中国版Twitter)、WeChat(ウィチャット)、観光サイト、検索エンジンを中心とするネットメディアは国民の旅行先の選択に大きな影響を与えている。この時代の流れに応じて、永泰県は積極的にインターネットを利用して宣伝を始めた。「永泰微旅行」、「大美永泰」などのWeChatの公式アカウント、及び「永泰自然来」¹⁴⁾、「永泰山居記」などのチケットのアカウントを通じて、観光情報を発信している。また、観光ビッグデータを利用し、交通事情、天気予報、治安、混雑状況などを一体化した総合情報サービスプラットフォーム「知恵永泰」を作り、観光施設や旅行社、ホテル、ショッピングモールが、この「知恵永泰」システムを導入し、より多くの観光客を呼び込む努力をしている。

また、情報を発信するためにはコンテンツが不可欠である。イベントの企画と実行、それらの情報発信を通じて知名度を高めることが求められる。現在では、国際自転車競技、李梅祭、中国農村復興フォーラム、国際温泉旅行祭り、クロスカントリーレース、観光文化カーニバルなどの大きなイベントが毎年行われている。民俗イベント、果物狩り、美食祭りなども定期的に行い、「永泰自然来」を実現させている。

さらに、「永泰自然来」のブランド効果を利用し、上海、広東などの大都市をはじめ、福州や厦門などの福建省省内の都市でも永泰県の宣伝を広めている。中央テレビ局(中国国営放送)、高速鉄道、アモイ航空などを通じて永泰県を宣伝するプロモーションも開催している。参加する企業には県政府が補助金を出す制度もある。例えば、大規模の観光貿易会(中国観光貿易会、省単位の観光貿易会など)に参加する観光企業に対して、上限1万円(約16万円)の参加費の50%、永泰県と連携して祭り、イベント、コンテストなどを開催する場合は、経費の30%、上限50万円(約796万円)の補助金を出している。

7. 今後の観光振興に向けた課題

ここまで、永泰県の観光業の発展における取り組みを考察し、整理してきたが、永泰県には数多くの有効な方策が蓄積してきており、目覚ましい実績を上げてきていることがわかった。しかし、今後更なる観光振興に向けて、まだ多くの課題が残されている。

7.1 リピーター誘致

観光業を持続的に発展させるためには、ポスターやパンフレットなどメディアを使って呼びかけるだけでなく、実際に訪れた人にまた来たいと思わせることが重要である。しかし、観光、交通、食事、宿泊、買物、娯楽の観光の六

要素から見ると、永泰県は自然が汚染されておらず、天然酸素バーという名称には名実相伴っているが、2020年現時点では観光・宿泊以外、食事や買物、娯楽などの面では整備がまだ進んでいないと言わざるを得ない。

観光の面では、まだ特定の観光スポットの開発が突出している。それ以外の地域には、観光スポットが散在しているが、それだけで観光客を誘致するのが難しいと考えられる。たとえば、有名な庄寨は各郷村に散在しており、小さな庄寨は10分間で見終わるため、周りに他の観光スポットや娯楽施設、グルメなどがなければ、わざわざその庄寨に行く観光客は少ない。

交通面では、電車、市バス、観光バス、道路施設などが整備されているが、観光施設、庄寨、農場、遊園地などの間の交通連絡はまだ整備されていないため、自家用車での観光でないと不便を感じさせる。土日、大型連休など、観光シーズンのピーク時には車が急増し、渋滞、駐車場不足などの問題が目立つ。特に、駐車場が足りないという状況がよくあり、国慶節や春節などの連休になると、道路沿いに何キロも路上駐車する状況がここ数年、いっそう激しくなっている。

観光地の周辺には、梅干、干しスモモなどの特産品があるが、簡易包装で観光客の購入意欲を起こさせない。また、販売価格も付加価値を付けて高く設定する工夫が足りない。人気観光スポット周辺のレストランでは、定価を高くしたり、不良品を提供したりする行為があり、観光客の満足度を大幅に低下させる。また、観光業従業員のサービス意識も高いとは言えず、地元住民も観光客を受け入れようという意識が薄いほか、地域間の協力意識が低いことも問題である。このような交通や買物、食事などの事情においては、観光客が決していい体験がもらえると言いがたい。

日本政府観光局の「訪日外国人旅行者の消費動向とニーズについて－調査結果のまとめと考察－」によると、訪日回数が増えると一人あたりの旅行支出が高くなり、また地方を訪れる割合が高くなる。さらに、日本の酒を飲んだり温泉で入浴を体験するなど消費に向かう傾向が見られる。その結果、「10回以上」訪日するリピーターの支出は、1回目に比べ2～4割程度高くなるという。このような観光者の消費動向が中国の観光業にも当てはまると思われる。また来たいと思わせるために、まず観光業の従業員や地元住民を含む現地の人々のおもてなし意識を高め、サービス水準を高めることが大切である。また、日本にあるような周遊乗車券を発行して、有名な観光スポットから知名度の低い観光スポットまで自由に移動できる交通網の構築も重要である。きめ細かな交通網があれば、各地域にある土産店、飲食店、民俗体験を通して地元文化に触れることができる。モノ消費だけではなく、地域の特性を活かしたコト消費にも焦点を当てるべきである。

7.2 宣伝効果の向上

永泰県の観光宣伝は主に政府が主導しており、政府は地域全体の発展を促進するために、美化しがちである。観光客が実際に来たら、想像したものとは違うと感じてしまい、逆効果になる恐れがある。また、国際自転車競技、観光文化カーニバルなどの大きな活動は政府主導で成果を収めている。しかしその他にも農耕祭り、採集祭り、落花生祭りなどのイベントは多いものの、これらのイベントの企画は政治的な任務で行われる場合が多いため、参加者の多くが政府関係者で、本当の観光客は少ない。

また、「網紅」(ワンホンと読み、インフルエンサーのようなインターネットで人気を持つ人や場所のこと)の場所や店などは、宣伝を持続的に行わないと、ネット情報が氾濫する現代では、すぐ人気が消えてしまう。現在、インターネットで人気を呼んでいる嵩口鎮にある「松口气」民宿を例にあげると、ここを訪れた芸能人にインターネットで褒められたことで、一時人気を博したが、時間が経つにつれて、徐々に人々の関心が薄れていった。「松口气」民宿のWeChat公式アカウントで発表された文章を確認してみると、設立初年度の2016年では21編、2017年は6編、2018年と2019年は各1編、2020年は本稿執筆時(2020年11月12日)では2編しか更新されていない。WeChat公式アカウントはこの民宿の重要な宣伝手段ではあるが、更新を続けないと顧客の注目をひきつけることができない。永泰県の大多数の観光スポットはこの「松口气」民宿と同じように宣伝の更新頻度が低い。また、宣伝文章は簡単で内容が薄いことも問題となっている。「松口气」民宿の場合、直接営利を求めるのではなく現地のスローライフや

郷土の民俗を発信し続ければ、都市生活者の目を引き、宿泊客が自然に訪れてくるのが期待できるだろう。

また、「永泰自然来」の宣伝に力を入れていることを紹介したが、永泰県の主要な客層はまだ福州市民に留まっている。どのようにして福建省の他の都市、ひいては中国全土から観光客を呼び込むことができるかが今後の課題である。

7.3 資金投資の着実化

閩都楽園観光区が代表として、永泰県は大企業を誘致し、大資金を調達している。しかし、養生、休暇などの「特色小鎮」(特色のある街)の建設に当たっては、産業基盤はソフトインフラの整備よりも、不動産開発が先行している。閩都楽園観光区には、「海西文化創意産業園」というプロジェクトがあり、山紫水明の自然環境及び温泉資源を利用して、観光、レジャー、放送局、出版社、新聞雑誌メディア、アニメ、伝統工芸品、ハイテク製品研究開発を一体化した総合型「特色小鎮」を作り上げる計画があった。開発業者が政府から 219 万㎡の土地を譲り受けたが、結局不動産の建設が先に行われ、建てながら売り、売れたら終わりという中国の不動産業によくある手法で参入しただけで、その後のソフトインフラの整備から手を引いた。今では、海西文化創意産業園は有名無実の存在となっている。海西文化創意産業園のような「特色小鎮」は主に観光資源が豊富なところに位置しており、景色は確かに良いが、娯楽や買物の施設がなく、交通が不便な場合も多いため、リピーターの誘致は難しい。不動産を買った人も不便を感じ、長く住むことができない。結局「特色小鎮」は開発の狙いと乖離して不動産在庫だけが増え、街自体が空洞化、ゴースタウン化してしまい、本末転倒になってしまう。

「特色小鎮」の建設には確かに投資が重要であるが、それには長期的な視点が必要で、政府は近視眼的な決断を下すべきではない。また、「特色小鎮」の育成には、既存の資源を活用した上で、本当の強みを見つけ、他地域との差別化を図れる産業の育成が必要不可欠である。

おわりに

本論文は中国福建省永泰県の観光開発における現状と課題を考察した。永泰県は地理的な原因で昔は貧困県として有名であったが、交通インフラの整備に伴い、観光ブームの流れに乗って、観光業を発展させてきて、いい成績を収めた。観光を発展させる主要な試みとしては、観光地の開発、観光資源の整備、水族館や遊園地などの大型テーマパークの建設、保養リゾートや特色小鎮などの総合型観光地などの大規模開発などが挙げられる。また、庄寨などの歴史建築を保護した上で、歴史的景観で観光を発展させることや、農場体験などを通じて農業と観光の産業連合を促進させることなども特徴である。そして美食祭りや果物狩り、大型イベントの開催、貿易会の参加などを通じて観光客を集めながら永泰県の観光イメージを外部に宣伝していく。

これまで論じてきたように永泰県の観光に関して、政府は主導的役割を果たしており、政策的にも資金的にも大きな支援をしている。それだけでなく、大企業資金の調達に加え、「郷賢」の助力、若者を中心とする地元住民の起業などによって一定の成功を収めた。

発展の過程においては、多くの問題も見られる。たとえば、観光開発と銘打ちながら不動産投資を行うような短期的な投資のやり方や、リピーター誘致意識の欠如などによって発展が妨げられていることなど数多くある。しかし、全体からいうと、永泰県の観光業は中国の多くの企業や業界と同じように、踏み石を探って川を渡り、学びながらやりながら改善しつつある。福建省は沿海部を除き、多くのところは永泰県と同じ、山地に位置しているが、その多くは政府が掲げる「緑水青山＝金山銀山」の理念に従い、緑水青山の資源をグリーン経済に向かって発展させ、観光業を大いに発展させている。永泰県の観光発展はまさに福建省観光業のモデルであるといえるだろう。

注

¹⁾ 本文に出ている日本円の金額は、すべて 2020 年 11 月 12 日のレートで換算される。1 元＝15.91 円。

²⁾ 中国の GDP データは、中華人民共和国商務部ウェブサイト <http://www.mofcom.gov.cn/> から引用する。

- 3) 中国の行政区分は基本的には省級、地級(市や自治区など)、県級(県級市と県の二種類がある)、郷級(鎮と郷の二種類がある)という4層の行政区のピラミッド構造から成る。本論で取り上げる永泰県は県級である。
- 4) 福建省では地級市は9市、県級市は11市、県は44県ある。福建省は山が多く交通が不便だったため、沿海部を除き、内陸部は貧しいところが多い。
- 5) 福州市永泰県人民政府公式サイト「永泰申請退出省級貧困県(永泰県は省レベルの貧困県から引き下がった)」による。http://ytx.fuzhou.gov.cn/xjwz/zwgk/gzdt/bdyw/201808/t20180820_2553894.htm [EB/OL]. (2020年9月1日)
- 6) 福州市永泰県人民政府公式サイトに公表された「2003～2019年永泰県国民経済と社会発展統計公報」により筆者が整理した。<http://www.yongtai.gov.cn/xjwz/zwgk/ghjh/gmijhshfzghgy/> [EB/OL]. (2020年9月11日)
- 7) 中国国家観光局より認定される観光地のレーティングである。観光地の魅力、重要性、安全性、清潔さ、衛生面、交通の便利さなどを評価ポイントに入れ、レーティングは1A～5Aまであり、最高グレードである5Aの観光地は世界を視野に入れ、4Aは国家級というレベルになっている。
- 8) 郷賢とは、故郷の賢人ということだ。具体的な意味は本論の4.4において解説する。
- 9) 中国では農業戸籍が都市戸籍へ自由に変動できなく、都市の間でも自由に移動することができないため、戸籍が必ずしも実際に住んでいる場所と一致するわけではない。2020年11月現在では2019年のデータがまだ発表されていない。2018年のデータは「福建省統計年鑑2019年」による。[EB/OL]. (2020年10月11日).
<http://tj.fujian.gov.cn/tongjinnianjian/dz2019/contents-cn.htm>
- 10) 宗族とは中国の父系の同族集団である。同祖同姓で、祭祀を共通にし、同姓不婚の氏族外婚制とする。同じく血縁でも母系は入らず、女系は排除される。したがっていわゆる親族のうちの一つであっても、親族そのものではない。ただし、永泰県では、同姓不婚という決まりは特になく、永泰県では、宗族単位で行事を行ったり、重要なことにおいて共同で解決したり、起業する時や異郷にいる時に支え合ったりして、特に宗族のことを大切にしている文化がある。
- 11) 「中国天然酸素パーク」は中国気象サービス協会主導で2016年にスタートした活動で、地方全域の観光の促進、地方のエコ経済発展の推進を目的としている。気候、大気中のマイナス水素イオンのレベル、観光との組み合わせ状況などに基づき総合評価を行う。
- 12) 庄寨とは、福建省の中部に点在している居住と防御を兼ね備えた大規模な民家のことである。唐の時代に建てられ始め、1000年以上の歴史を持つ。土、木、石の構造で、同一の姓を持つ血縁関係がある家族が共同で建てるのを特徴として、川辺の段丘、山間の盆地、丘陵の山腹と台地の上でばらばらに建てられている。
- 13) 土楼とは、土や石、わらなどの自然素材のみで造られた建物のことである。日本でよく知られる土楼は世界遺産に登録された円形や方形の形をした客家の巨大な建造物であるが、永泰県の土楼は二、三階建ての方形の小さい建物が一般的である。
- 14) ここの「自然」は、永泰県の自然のために来ると、自然に永泰県へ観光しに来るという名詞と副詞の両方の意味合いを持つ。

参考文献

- 王姿燕、範小琴(2019)「郷賢対永泰県旅遊産業発展的影響机制研究」『科技与産業』第20巻第3期、pp.80-84
- 何毓涵、徐敏(2019)「浅析鄉村“旅遊+”伝媒模式特色旅遊—以福州永泰県為例」『現代農業研究』第26巻、pp.3-5
- 官紫玲、陳順和(2019)「郷土文化景觀安全格局及遺産廊道構建研究—以福建永泰為例」『中国園林』第36巻、第2期、pp.96-100
- 日本政府観光局(JNTO)インバウンド戦略部調査・コンサルティンググループ「訪日外国人旅行者の消費動向とニーズについて—調査結果のまとめと考察—」平成28年12月、p22
- 中華人民共和国文化和旅游部 HP(2020)「2019年旅遊市場日本状況」[EB/OL]. (2020年10月12日)
https://www.mct.gov.cn/whzx/whyw/202003/t20200310_851786.htm
- 陳華陽、畢安平(2019)「居民主体性視角下的民宿空間營造—以永泰県嵩口古鎮為例」『農村經濟与科技』第30巻、第5期、pp.93-95
- 蘭石財(2018)「村民参与式的美丽鄉村建設模式探究—基于福州永泰“嵩口模式”的有效經驗探討」『農村科技』2018年、第3期、pp.68-70
- 林清、陳子亮、方志偉、賴啓福(2019)「基于 AHP 法的永泰県生态旅遊資源評估体系的構建及実証研究」『西昌学院学報(自然科学版)』第33巻、第2期、pp.44-50
- 劉雅培(2019)「基于文创理念下鄉村民宿的改造与設計研究—以福州永泰嵩口古鎮開發民宿為例」『吉林省教育学院学報』第459期、pp.182-186

The Current Situation and Problems of Tourism Development in Fujian Province of China —A Case Study of Yongtai County—

YAN, Ling

In recent years, China's tourism industry has developed rapidly, and its GDP in 2019 accounts for 11.05% of China's total GDP. This paper investigates the practices and existing problems in the process of tourism development in China's local cities. The object of this investigation is Yongtai County, Fujian Province, which is rich in natural resources but has no industry.

The results show that the main methods adopted in the development of tourism in Yongtai County are giving full play to the characteristics of each township to promote the whole area's tourism, improving the infrastructure to improve the convenience of tourists, improving the quality of tourism service, and integrating tourism with other industries. In terms of funds, in addition to the government's investment, attracting large enterprise funds, the contribution of “wise people in the county”, and encouraging the youth to start new businesses are also significant features. However, there are also some problems such as real estate investment in the name of tourism development and the weak awareness of attracting repeat customers, which are all problems faced by tourism development in the future.

Keywords: Tourism development, China's tourism, Ancient town development, Tourism publicity